本資料は NJHL 長野県ジュニアアイスホッケーリーグを開催するにあたり、感染症対策について、長野県アイスホッケー連盟から示された指針をもとに、リーグ戦用に対応すべき事項を示したものです。赤字は選手、青字は競技関係者（スタッフ・保護者）の皆さまに順守頂きますようお願いいたします。

長野県アイスホッケー連盟大会運営指針

長野県アイスホッケー連盟主催大会参加の皆様へ 皆さまはぜひ、新型コロナウイルスに対しての個人防衛をお願いします。選手、チームスタッフ、競技役員、試合運営に携わるすべての皆さま、そのご家族一人一人が、新型コロナウイルスの特性を理解し、感染を予防する行動を取ってください。それでも感染を100%防ぐ手だては、現時点では、残念ながらありません。「体調が悪いけど、我慢して試合に出よう、ボランティアにいこう、ちょっと試合を観るだけだ」といった行動が、感染を広げてしまう可能性があります。発熱・咳・倦怠感などの症状を認めたら休む勇気を持つこと。そのことをチームに連盟に報告する勇気をもつことを、是非お願いいたします。

またファンの皆さまにも、観戦にあたって、発熱・咳・倦怠感などの症状を認めた場合にはアリーナに行かない、という文化の醸成が求められています。こうした個人防衛と集団防衛を通じて、社会防衛に貢献していきましょう。まず、「新型コロナウイルスの感染防止に関する大会等の実施基準」（日本アイスホッケー連盟ホームページ参照）を土台に、下記のことを基本にコロナウイルスにうち勝つ工夫をしていきましょう。

※【 】内の対象者は、特に注意してください。

1 新型コロナウイルス感染症の感染経路は2つ【全員】

- (1)飛沫感染（咳・くしゃみ、おしゃべりによる感染）
- (2)接触感染（手、肌で触れることによる感染）

2 一般的な予防方法【全員】

- (1)「3つの密（密閉、密集、密接）」を避ける。
- (2)手洗いと咳エチケットに心がける。
- (3)口・鼻・目に不用意に触れない。
- (4)規則正しい生活とバランスの取れた食事に心がける。

3 感染を注意すべき関係者【全員】

- (1)選手、チームスタッフ、およびその家族・同居人
- (2)スタッフ：大会役員、競技役員、およびその家族・同居人
- (3)アリーナスタッフやトレーニング施設スタッフ
- (4)試合運営に関わるボランティア、警備スタッフ、売店スタッフ、清掃スタッフ
- (5)チームバスの運転手
- (6)メディア
- (7)ファン・観客

4 関係者全員が、毎日の健康チェックと行動記録をする【全員】

- (1)体温測定：起床直後・就寝前等、体温記録・検温時間を、毎日記録する。（付属文書2 参照）

(2)問診表チェック：倦怠感、咳、咽頭痛、食欲低下の有無、睡眠時間など

(3)毎日の行動記録：買い物、会食、戸外でのトレーニング等、出向いた場所・同行者などの毎日の行動メモを残す。

(付属文書 3 参照)

5 長野県アイスホッケー連盟主催大会は、当面、限定つき無観客試合といたします。【全員・選手】

(1)3 の「感染を注意すべき関係者」のうち「(7)ファン・観客」「(2)スタッフ：大会役員競技役員の家族・同居人」は申し訳ありませんが入場できません。 ※NJHL：選手の家族の観戦は可能ですが、密にならないようご注意ください。

(2)選手として出場する場合、同意書を提出する。未成年者は必ず保護者からの承諾を得る。(一定の感染リスクがあることを承知した上で参加することを承諾)

6 試合前後のトレーニングでの全般的注意事項【選手、チームスタッフ】

(1)人と人の接触を減らす。チーム全体ではなく、グループ単位で

(2)共通のモノを通じた接触を減らしこまめに消毒する。タオル・ウオータボトル・防具・スティックなど

(3)全員が感染防止マナーを守る。

①社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）

②咳エチケット（マスク着用を含む）

③手洗い、手指消毒（70-80%アルコール）

④不用意に自分の顔、とくに目・鼻・口などの粘膜に触れない。

⑤握手、ハイタッチ、抱擁は禁止

⑥唾吐きや大声を避ける。

⑦控室、トイレなどのドアノブはこまめに消毒

(4) 自動車利用者は、可能な限り着替えは自宅や宿泊施設で済ませ来場する。 ※NJHL：施設ルールに従う

7 練習前後のミーティング【選手、チームスタッフ】

(1)ビデオミーティングで済ませるようにする。

(2)実施する場合は屋外で、短時間で実施。マスクを着用。社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）をとる。

(3)トレーナーの選手対応はマスク・手袋・手指消毒など標準予防策をとる。

(4)各トレーナーが一つのグループに対応することが望ましいが、チーム事情を勘案する。

8 試合開始直前【選手、チームスタッフ、大会役員、競技役員】

(1)ブルーラインの整列は社会的距離（最低 1m）をとって

(2)試合開始直前に行うレフェリーからの注意は試合前に行う。

①ビデオミーティングで済ませることを推奨する。

②実施する場合は屋外で、短時間で実施。マスクを着用。社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）をとる手指消毒など標準予防策をとったうえで対応

③ホームチームを決める必要のある場合も事前に決めておく。

④レフェリー委員会から「新型コロナウイルス感染予防に対するの通達」及び「2020-2021 シーズンローカルルール新型コロナウイルス(COVID-19)感染防止策」も出る予定なので、周知しておくこと。

(3)試合開始に先立ち行う挨拶

①レフェリーとの接触を避ける。握手せず社会的距離をとって礼のみ

②相手チームスタッフとの接触を避ける。レフェリーも同様

(4)試合前に行う円陣は小さくならないように配慮。エアータッチなどの工夫で接触を避ける。

(5)GK のウオータボトル等は、自分で設置、移動することに心がける。

9 試合中【選手、チームスタッフ】

(1)ベンチ内は社会的距離を意識して工夫する。

(2)選手以外のスタッフはマスク・手袋・手指消毒など標準予防策をとること。

(3)選手への指示は飛沫感染を意識して少なめに、大声を出さないなど工夫する。

(4)タオル、飲水ボトル等を共用しない。(個人の物は、個人で運ぶ=スティックなど)

10 休憩時【選手、チームスタッフ、大会役員、競技役員】

(1)控室内でも社会的距離(できるだけ 2m、最低 1m)を確保する。空いている部屋があれば追加の控室として利用できるよう割り当てる。空きの部屋もなく社会的距離を確保できない場合には、ベンチ裏等も視野に工夫する。

(2)選手以外のスタッフはマスク・手袋・手指消毒など標準予防策をとること。

(3)選手への指示は飛沫感染を意識して短時間に、大声を出さないなど工夫する。

(4)控室の滞在時間を、できるだけ減らす。

(5)控室は窓を開けて、換気に心がける。控室を離れる際、施錠を忘れずに

11 試合終了後【選手、チームスタッフ大会役員、競技役員】

(1)試合終了後、両チーム分かれてオフィシャルボックスに向かって社会的距離(最低 1m)をとって整列する。

(2)ゲームベストプレイヤーの表彰 授与者はマスク・手指消毒など標準予防策をとること。握手禁止 写真撮影は選手のみ

(3)GBP が戻り、試合結果アナウンス。両方向に向かって礼をしてベンチに戻る。レフェリーや相手チームへの挨拶はしない。

(4)両チームの選手代表が TOTO 旗を持ち、写真撮影を行う。

(5)ベンチに戻った選手から、所定の場所で、帰る準備を短時間で済ませる。

(6)自動車利用者は、可能な限り着替えは自宅等で行い、選手控室(更衣室)では行わない。 ※NJHL ルール

(7)自宅や宿泊施設に戻ったらヘルメットやグラブ、スティック、スケート靴など他人の 飛沫がつきやすい用具の消毒、ジャージやストッキングなどの洗濯を行う。

12 開会式・監督会議【チームスタッフ、大会役員、競技役員】

(1) Web 会議又は書面通知文書(メール)で行う。

13 練習場・試合会場へのアクセス【選手、チームスタッフ】

(1)公共交通機関を利用しないことが、推奨される。

(2)自家用車で一人ずつアクセスすることが、推奨される。

(3)駐車場でも余裕があれば、離れて駐車することが、推奨される。

(4)チームバスを利用する場合には、バス会社への事前の依頼事項を徹底してください。①バス乗車人数を減ら各選手間の距離 1.5~2m を確保してください。

②着席する際は出来るだけ前後左右に各 1 席の空席を確保し、運行中は移動しない。③バス内ではマスクを着用します。

④バス内での飲食は控えてください

⑤窓を開けて、換気します。1 時間につき 3 回の換気が推奨されます。

⑥サービスエリア等での休憩時もマスクを着用し、感染予防に資する行動をとる。

⑦乗降時には手指を消毒してください

※バス会社への事前の依頼事項

- 励行する感染症予防対策ガイドライン等の提示（行政機関、加盟同業団体、自社制作等）
- 利用直前の車内消毒
- 乗務員の体調管理及びマスク、手袋の着用
- 手指消毒液等の車内配備
- 運行中の車内通気・換気の徹底

14 試合会場への入場【チームスタッフ、大会役員、競技役員】

(1)到着時に体温チェックし、37.5 度以上の者は帰宅させる。

(2)会場への入場をコントロールする。密にならないように

- ①常時マスクを着用する。
- ②選手・チームスタッフと家族・メディアの導線を分ける。

15 取材に関して【大会役員、競技役員】

(1)取材を認める場合下記のような厳格な感染対策をとる。取れない場合は入場を許可しないこともある。

- ① 常時マスクを着用する。
- ② 選手・チームスタッフと、報道関係者の導線を分ける。
- ③ オンライン取材や取材場所を屋外などに限定し、常に社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）をとる。
- ④ 取材前に体温測定し、37.5 度以上の場合、会場から退去していただく。
- ⑤ 取材者とその家族・同居者が、直近 14 日間にコロナ感染症の疑い症状（発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常）を起こしていないことを、宣誓する。
- ⑥ 緊急時の連絡先をご提出いただく。

16 チームの宿泊（宿泊施設への依頼や相談）【選手、チームスタッフ】

(1)チームの宿泊施設の従業員や利用客との接触を減らすよう、工夫する。

(2)施設単位またはフロア単位での貸し切りを検討する。

(3)チーム専用の入口、動線、エレベーター等を設置できないか、検討する。

(4)食事会場はチーム専用になるよう、検討する。

(5)チームが使用する部屋は事前に消毒、換気するよう検討する。

(6)連泊する場合の客室の清掃・チームの不在時に清掃、または、清掃しないことも選択 肢にする。

(7)チームが訪れる各所（特にトイレ）に手指消毒液を設置するよう検討する。

(8)その他チームの行動規範

- ①自室以外ではマスクを着用する。
- ②エレベーターのスイッチや階段の手すりに、素手で触れないようにする。触れたら、すぐに手洗い、消毒する。
- ② ホテルのサウナ、フィットネスルーム、バー等に立ち入らないようにする。

(9)部屋割り

- ①原則、一人一部屋とし、部屋間の往来を禁止する。

②部屋の換気を良くしてください。温度 21 度、湿度 50～60%が推奨される。

③ マッサージルーム内を混雑させないよう留意する。

17 食事（宿泊施設への依頼や相談）【選手、チームスタッフ】

(1)選手の席は 1.5～2m の距離をあける。向かい合わせの配席は不可

(2)十分に広い部屋がない場合、グループ分けして食事時間をずらす工夫をする。

(3)食事は一人ずつ取り分けた状態で用意する。（ビュッフェ形式は可能な限り避ける）

(4)食事中、宿泊施設の方は部屋にいないようにする。片付けはチームが退出したあとに行う。

(5)ビュッフェ形式では料理を取る際、飛沫が大皿に飛ぶことを防ぐため、各人がマスクを着用し会話を控え、個人専用トングを使用すること。

18 宿泊所内ミーティング【選手、チームスタッフ】

(1)可能な限り、ビデオ会議（バーチャル/ミーティング）をご検討ください

(2)リアルで実施する場合、部屋の換気に留意してください。監督・コーチ、選手が 1.5～2mの距離をとって着席してください。

19 無観客での試合開催【大会役員、競技役員】

(1) アリーナ内のゾーニング

① できるだけ来場者の人数を少なくする。

② ゾーン分けしておくことで、感染者が出た場合の影響範囲を限定する。

(2) 来場者の一覧表を作成する。

① 来場時刻、退場時刻を記録する。

② 来場者全員の連絡先を把握しておく。

③ 密接にならないように座席の配置を工夫する。

《参考資料》◎ Jリーグ新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン 内容的にも詳しく的確な記載であるので、一部引用させていただきました。
JIHF「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策としてのアイスホッケー活動再開ガイドライン」
https://www.jihf.or.jp/image_data/EVENT/2379_2.pdf IIHF「2020_ IIHF_安全にアイスホッケー活動に戻るためのロードマップ」
https://www.jihf.or.jp/image_data/RULE/45_1.pdf（公財）日本スポーツ協会、（公財）日本障がい者スポーツ協会「スポーツイベント再開に向けた感染拡大 予防ガイドライン」
<https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/jsपो/guideline.pdf> スポーツ庁「社会体育施設の再開に向けた感染拡大 予防ガイドライン」
https://www.mext.go.jp/sports/content/20200514-spt_sseisaku01-000007106_1.pdf 日本スポーツ振興センター「新型コロナウイルス感染症対策としての活動再開ガイドライン」
<https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/Portals/0/katudousaikaiguideine.pdf>